

平成
24
年度

第三回 練馬区議会定例会で 一般質問を行いました！

区の財政について

- 質問**
- ① 平成23年度決算の認識と、財政健全化の取り組みについて
 - ② 来年度の一般財源の見通しについて
 - ③ 来年度に向けた財調協議の取り組みの考えについて
 - ④ 補正予算編成についての所見を



- 答弁**
- ① 平成 24 年からの 2 年間で事務事業の総点検期間と位置づけ、全事務事業の見直しをはかるとともに、新たな財政白書を来年早々に示す。
 - ② 現時点で、一般財源の総額は、本年度とほぼ同規模で推移すると想定。
 - ③ 将来を見据えた本区の行政需要に応じた交付金の算定を強く主張。
 - ④ 区民の福祉・健康対策の充実、経済対策の追加措置、安全・安心の拡充等を基本として編成を進めている。

産業振興について

- 質問**
- ① (仮称)産業振興会館の運営方針と果たすべき役割は
 - ② 運営の担い手となる運営主体と、その組織作りと支援を
 - ③ 今後のねりまファミリーパックの運営のあり方は
 - ④ (仮称)産業振興会館の運営組織にファミリーパックの活用と人材の確保を



- 答弁**
- ① 区内の各産業分野の情報発信や、事業者間の連携を進める拠点として役割を十分発揮できるよう検討を進める。
 - ② 産業経済団体の連携による新たな組織の設立に知足、関係団体と十分協議し、必要な支援をする。
 - ③ 現在、区とファミリーパックとの間で、勤労者向け共済事業の充実、区民会員制度の見直しについて検討を進めている。
 - ④ ファミリーパックの今後の事業展開と活用については今後検討する。また、人材確保について、職員の育成に力を注ぐとともに、経営支援の実績を持つ、専門性の高い人材の活用に努める。

外環について

- 質問** 早期完成に向けた認識と、残された課題の解決を

- 答弁**
- ① 早期延長に向けて全力で取り組むよう、国や都に強く働きかける。また、延長にあたり、インターチェンジの重要性に加え、関係利権者の生活再建の観点からも、これまでに増して責任を持って対応するよう、国や都に求めていく。



まちづくりについて

- 質問** ① まちづくりに対する意気込みと、都市計画マスタープランの改定への思いを

- ② 練馬区がこれまで成果をあげてきた、防災まちづくりへの姿勢を高らかに示し、東京都等との協力・連携を強化し、事業推進を

- 答弁**
- ① 東日本大震災により、都市基盤の整備の必要性や、地域のコミュニティがまちづくりに欠かせないものと認識した。これまで以上に計画的なまちづくりに積極的に取り組む。
 - ② 災害に強いまちづくりを進めるため、地域での合意形成に一層務めるとともに、都に対して、あらゆる機会を捉え、事業の推進に必要な支援を獲得するための働きかけを強く続け、防災まちづくり事業を着実に推進する。



いじめ問題について

- 質問** ① これまで区立小中学校全校で実施しているいじめに関する調査の具体的な結果について。また、調査結果は、学校におけるいじめの実態を、どの程度反映でき、また、活用できていると考えているか。



- ② 学校でのいじめへの対応状況と課題について
③ その状況を踏まえた、教育委員会の対応について
④ 本年4月の組織改正で、教育委員会が所管することとなった、こども関連部署の、現在のいじめへの対応状況は。今後、組織改正をどのように活用し、いじめに対応していくのかについて所見を。

- 答弁**
- ① 今年 7 月に実施した調査では、小学校 132 件、中学校 98 件のいじめが確認された。悪口やからかい、殴る等の暴力行為も確認。今回の調査結果をもとに、具体的な取り組みを始めている。
 - ② いじめには「組織で対応する」ことを基本姿勢として、家庭や関係機関との連携の下、未然防止と早期発見を主眼に置き、取り組みを実施している。課題としては、学校が把握することが難しい事例やいじめている子どもの家庭の理解が得られないなどの事例もあり、対応を進める上での課題もあると捉えている。
 - ③ 教育委員会では、「練馬区版いじめ対応のポイント」に基づき早い段階での対応を図るよう指導した。
 - ④ 組織改正により、教育委員会が所管する子ども関連部署全体でのいじめ対応に向けた方策を推進する。



真に子どものための子どもの立場に立った
施策をめざします！



常任委員会 区民生活委員会 委員

特別委員会 医療・高齢者等特別委員会 委員長

各種委員会 民生委員推薦会

ご相談は… 関口かずお 事務所

〒176-0021 練馬区貫井 3-53-8

Tel / Fax : 3998-1752 HP : <http://www.k-sekiguchi.jp/>



自民党

練馬区議会議員 第五十九代議長

関口かずお

いじめられっ子世にはばかる

小学生の頃、犬を三頭飼っていた。

その頃、私はかなりの引っ込み思案で体も小さく、どちらかといえば、いじめられっ子であった。そこで、「犬をお供にして歩けば、みんな怖がって近づいてこないだろう」とおもって、飼いだしたのである。

それぞれに個性のある三頭を連れて歩くと、自分が強く、大きくなったようにおもったものだ。

ちょっとした仲間はすれや、からかいでも、私のように気にしてしまっ子どもにとってはとてもこたえる。それがよく分かるから、連日マスコミを騒がす「いじめ」の問題から、目をそらすことができない。

いじめは「あってはならないもの」「だと言われるが、一人の集まるところ、どこにでもいじめがある」こともまた事

実である。いじめをなくすことは究極の目標だが、なかなか難しいのが現実であろう。

ところで、なぜ、最近のいじめが、これほど凄惨だったか。その原因の一つに、子どもたちの「想像力と判断力の欠如」があるように、おもった。

昔前の子どもは、いたずらをしたり、言うことを聞かなかったりすると、先生や周りの大人から、容赦なく拳骨やビンタをもらったものだ。子ども同士、外で無理な遊びをしたり、取っ組み合いの喧嘩をしたりして、怪我をすることも多かった。

体罰や虐待を容認するわけでも、子どもの安全を守る努力を否定するわけでもないが、子どもたちの生活から、「傷を負う」「傷を負わせる」という経験や、必要以上に奪ってしまっったことが、「手加減を知ら

ないいじめ」につながっているように、おもった。

心と体で、実際に「痛み」や「傷」を経験していない子どもには、相手に与える「痛み」や「傷」が、どの程度のものなのか、想像がつかない。だから当然、どこで止めるのかの判断もできないのである。

痛みを知り、傷を持つ人間であれば、ほんの少し想像力を働かせるだけで、他人をいじめることなど、できないはずである。

日々の生活の中で、多少の怪我をし、痛みを味わうようなことを、避けるにさせてみることだけでも、子どもには大きくて大切な経験になり、想像力の源にもなる。これは、いじめをしない子どもへの第一歩である、おもった。

マンガ「ドラえもん」には、主人公のび太に対するいじめめとめ取る場面が、数多く出てくるが、それでも、長年子どもから大人まで幅広く読み継がれているのは、のび太

が暴力や仲間はずれに遭遇したとき、いつも一緒にいて、その話を聞き、見守り、助ける「ドラえもん」という救いになる存在があり、それを支えに、のび太が元気に立ち上がり向かっていく姿に、皆が勇気づけられるからである。

残念ながら、現実には「ドラえもん」はいない。しかし、子どもの中には、教職員、児童施設や学童クラブの職員、地域の方々など、たくさんの大人がいる。この大人たちが、子どもにとっての「ドラえもん」になればよいのだ。自分の立場や職分にこだわらず、それぞれが連携する、強力な「ドラえもん集団」を作れたら、おもった。

虎の威を借る狐ならぬ、犬の威を借りていた引っ込み思案の少年は、半世紀を経た今、おかげさまで区議会議員として、子ども施策に関わることでできている。

いじめられっ子、世にはばかる、のである。